

第30期社会教育委員の会議

第 7 回定例会

議事録

令和 5 年 3 月 9 日

【１】開催日時

令和５年３月９日（木）１８時３０分～２０時３０分

【２】開催場所

教育会館３階 研修室「ぎんが」

【３】出席委員

井上委員（議長）、堀井委員（副議長）、峯岸委員、奥平委員、豊田委員、村上委員、
村内委員、佐藤委員、新海委員

【４】出席職員

教育委員会事務局

内田生涯学習部長、加野生涯学習・地域学校連携課長、御園生社会教育担当係長、
清野社会教育係主任

【５】傍聴人

無し

【６】次第

１ 第６回議事録の承認

２ 議事

（１）実践的連携・協働に向けた活動計画

- 計画案作成 -

３ その他

（１）次回日程について

○議長 ただいまから第30期社会教育委員の会議第7回定例会を開催いたします。

まず、第6回議事録（案）の承認でございます。事務局より事前に送付されておりますので、委員の皆様には御確認いただいております。訂正等がありましたら、この場でお申し出いただき、皆さんと確認したいと思います。いかがでしょうか。

問題ないようでしたら、承認をお願いいたします。よろしいですか。ありがとうございました。

それでは、この会議終了後、村上委員と村内委員に署名をいただきたいと思います。

あわせて、今回の議事録については奥平委員と豊田委員に署名をお願いしたいと思います。

なお、修正の有無にかかわらず、後日、事務局より議事録の完成版を配付されるということですので、よろしくお願いいたします。

では、議事に入ります。

今日は、実践的連携・協働に向けた活動計画 であります。前回お話が出ましたが、来年度の5月以降に連携・協働活動の試行に向けての計画案の作成がメインとなっております。事前に事務局からA3の「実践的連携・協働に向けた活動計画検討事項シート」が配付されておりますので、お目通しいただいていると思いますが、これまで4つの活動を中心に検討してまいりましたけれども、来年度、具体的に学校との連携・協働活動を進めていくために、事務局でフォーマットを作ってくださいましたので、これを土台にしながら作成したいと思っておりますが、いかがでしょうか。

特に御意見がないようでしたら、どんな活動が来年度できるかということを、4つの事例を中心として活動いただいた委員の皆様から御発言いただければなと思っております。また、それを伺いながら、この場にいらっしゃる委員の皆さんからも御意見をいただきたいと思っております。

前回の引き続きの内容ですけれども、4つの事例の中心になって活動していただいた皆さん、いかがでしょうか。

今まで子ども食堂から始まりましたので、この順番で、思いついていることで構わないんですけれども、お話をいただければと思います。

○委員 今、5月から始めて1年弱なんですけれども、この1月ぐらいから学校側で気にしている方たちが登録してくれるようになってきたようです。連携しているわけではない

のですが、時折情報を流すような形で、また時折流れてくるような形で、今のところ、つかず離れずの距離感を保っております。

ポイントとなるのは、包括支援員の方がスタッフになってくれているので、やんわりと何となくの情報が、持ち出さない程度のやり取りをしているというふうなこととか、あとは、実際に学校に通っている親御さんがいらっしゃるので、学校の様子とかを聞いたりしながら、さりげなくつながるような感じにしているのですが、今の校長先生は、こういった活動をとてもうエルカムで、どんどん校長室に来てお話ししてくださいというふうな形としてくださっています。

前回もお話があったように、あまりダイレクトに行き来してしまうのは、少し活動の趣旨とも違うということもあるので、慎重に慎重に進めていくのですが、そういった意味では、今、来てくださっている子どもさん、御家庭の方たちの情報も、こちらあまり深くは話さない、聞き込むことはしていないのですけれども、回を重ねてくると、ここはちょっと、えっ、そんなことも聞き込まないし、あまりルールを押しつけても来ないというふうなことで、似たようなお友達を連れてきてくれたり、そういったネットワークに少し触れ始めているのかなということがあって、そんなことも少し緩く学校にフィードバックすると、学校のほうからも緩く、何となくしてくるというやり方です。

それを協働と連携という形にもしするのであれば、どうしたらいいのかというのが少し今、何かを踏み込まないといけないのか、もしくは何かを足さないといけないのかというふうなところが、考える方向性としての1つのポイントと、あとは、そういったときに今のスタッフの許容範囲でできるのかというふうなことが課題、問題と思っています。

やる気でやるぞと旗を振ってしまえば、多分いろんなことができるような機動力があるなとは思っているのですが、一步間違えると全部総崩れになってしまう危険性もはらんでいるので、ちょっとその辺が……。そんな感じでよろしいでしょうか。

○議長 事務局に確認したいんですけども、今日、こういうフォーマットがありまして、前回のお話で言うと、来年度は今年度検討させていただいた4つの事例を、さらに学校と連携・協働する活動を何か展開できたらいいなということで進めるということなんですか。

○事務局 そうですね。今、議長がお話しされたようなことを事務局としては考えております。その結果、これまで4つの活動事例を検証してきたという経緯がありますので、協働という形になると、何か一緒にやるような形になってしまうかもしれないんですが、その手前の連携ということであれば、大小かわらず、いろんな形が考えられるのではない

かなと思っておりますので、そこら辺をぜひ、当事者の担当の委員の方だけではなくて、ほかの委員の方もいろいろ御発言いただきながら、こんな可能性があるんじゃないかというのを議論しながら、この計画案を作成できればと思っております。

○議長 分かりました。

それから、少し先に進んでしまいますけれども、資料4で、いつやるかということですが、けれども、ここが多分、前は5月から6月ぐらいという話だったと思うんですが、これが8月に修正になっております。これは後で事務局からお話があるかもしれませんが、4月は何かと忙しいし、5月、6月でできるものもあるだろうけれども、そんなに急いでやるべきものかどうか。もう少し、夏休みぐらいまでの時間の中で考えたらどうだろうかというお話をいたしました。これは必ずしも夏休みにやらなきゃいけないということでもないわけで、子どもたちがいなくなったり、それから、夏休みは夏休みで、今、学校閉庁日があったりするので、学校の都合もあるでしょうしということで、5月、6月と限定せずに、もう少しスパンを長く取ってみたということを一応頭に置いていただいて、そして、今、委員からお話がありましたけれども、新しいものを足すのか。あるいは踏み込んでいくのか。しかし、それをすると大事にしてきたものが崩れてしまうかもしれない。するのであれば、おかしい問題になるかもしれないしということで、今お話しいただいたようなことで、子ども食堂で何かやるとすれば、どんなことができるだろうかという御意見をいただきたいんですね。前回かな。前々回かな。お話しのように、必ずしも連携することがいいかどうかというのもあるという話もありましたよね。いろんな情報が伝わってしまうというのも、活動の本来の趣旨からすると、違うのではないかと。学校とは違うような場所があるということも、いいということもあるかもしれないし、でも、先生方にも知ってもらってもいいということもあるかもしれないし、そのあたりを皆さんからご意見をいただきたい。

では、今日、まず子ども食堂からということでいいんですね。まずスタートとして。ということであります。

いかがでしょうか。どのような切り口からでも。

○委員 話を聞いて、ああ、そうですか、そういう面があるんですかというのは理解できるんだけど、やっぱり連携の部分の難しいところで、今よく言われる個人情報の部分があるので、伺いながら、緩い連携がいいんじゃないのかなというふうには非常に思いました。

○議長 子どもについての情報が伝わっていくことのメリットもあるけれども、デメリットもあるということですよね。

○委員 いろんな方が関わっていただいて、いろんな話が子どもに入って、いろんな角度で見てくれる。それが一番いいんじゃないかなと思いますね。

○議長 とても大事な御指摘だと思います。

○委員 今の連携としては一方的に、時々こんなふうに人数が増えていますとか、こんな感じですよというのをお伝えして、校長先生が受けてくださっているというようなところの中と、リアルなママたち情報をキャッチしながら、あとはもうこっちでということと、やっぱり学校にどちらかという行き渋っているお子さんが多く来ている傾向があるので、あとは、学校で比較的御指導を受けているお子さんが来ている傾向があるので、あまり学校的话题を振らないように、前は「今日学校どうだった？」と聞いてみたんですけども、この頃はそういうことを聞かないほうが、何か伸び伸びするというのもよく分かったので、今、うちの子ども食堂は学校の隣にあるにもかかわらず、そういう傾向があります。

ただ、みんな学校には行きたいし、何をやっているかもすごく気にはなっていて、そういう気持ちはすごくあるのを子どもたちからも感じるので……。

できるか、現実味があるかないか分からないのですが、学校カフェみたいなものは、やってみたい気持ちが私の中にはあって、学校に来て、保健室ではないほかの居場所、もうちょっと緩いとは言わないんですけども、そういう場所で、誰が来てももちろんいいし、教室が難しい子がちょっと来るのもいいような、そんな場所が持てたらというのは、すごくすごく大きな、先の話なんですけれども、何かそんな思いは……。

○議長 もう少し学校カフェのイメージをお話しいただいて。

○委員 学校カフェのイメージとしては、小学生は少しどうかと思うんですけども、中学生ぐらいの、昼休みとか放課後の時間に図書室の一角、スペースはちょっと具体的にあれなので、何かどこかの一角に、リラックスできるところと、簡単に飲めるお茶とか、おみそ汁とか、簡単な軽食があって、ぶらっと来て、そこに誰か大人がいて、安全を見守りながら話したければ話していけばいいし、子どもたちはそこで集ってという、そんな感じ。いわゆるカフェです。

だから、指導したりとか何かはないのですが、気軽に来て話せる安全なスペースという感じですかね。

○議長 その場合には、その学校の生徒さんということが分かれば、別に名前とかもそれほど必要ではないし、学年も名前も必要ではない感じで。

○委員 はい。必要ないしということですね。という感じで。

運営するのは地域の、そこはちょっとちゃんと、ボランティアということで登録したり、そんな心構えのある、情報は持ち出さないとか、そういったことの守秘義務を守れる方をというふうに思っていますが、多世代との交流、いろんな大人がいたり、学生さんもいてもいいと思うんですけれども、そういった、来て、何か落ち着ける場所、寝たい子は、ごろっとしてもいいんじゃないかなと思います。そんな場所があってもいい、つくってみたいなのというのは何となく思っているところです。

○委員 面白いんじゃないかなって私は思うんですよね。それはなぜかというと、学校の先生がいるときの学校のイメージって、やっぱり堅いんだと思うんですよね。学校の先生じゃない、地域の人がいるときの学校のイメージって柔らかくなるんじゃないかなと。そういう意味で、中学校は小学校と違って、中休みで遊ぶような習慣もないわけですから、ほぼほぼ授業との間は10分間程度の移動時間であって、ザーっと6校時までガーっといくわけですから。だから、ほっと息が抜けるなんていうのは面白いのかなという。

例えば3年、今、もうそろそろ受験は終わるわけですがけれども、今日は都立の二次募集の試験日だったんですけれども、特に2学期以降は受験で大変な部分もあるわけですから、きっと学校が終わったら家へ帰って、家へ帰ったらどうせ塾なんだろうなと。少し、ほっとしたいなと思うのは、3年なんかは思うんじゃないですかね。そうすると、堅いイメージの学校が柔らかいイメージの時間があるというのが面白いかもしれないですね。そんなふうに感じましたけれども。

○議長 先生じゃない人があるから、勉強とかは関係がなく。

○委員 大人でもそうですよね。ちょっと、ほっと行くところがあってもいいかなというところと、そこに、なので、いつも開いているわけではなくて、やっぱりルールは、もちろん決まっていたほうがいいとは思いますが、やり方もあるんですけれども、何かそういったスペースに地域の人が入っていけるような。

小学校だと、少しいろんなことが難しいのかなと、ちょっと何となくイメージの中で、どうなのかなというのはあるんですけれども。

○委員 私、社会教育委員に前になったときに、たしか自分で学校カフェと言った気がするが。小学校の話で。でも、今のとはちょっとまた違って、何かあのとき、関係性をも

う少し、子どもとか、あと、地域の人同士の、大人も子どもも関係性をもう少し持つようにするにはというのがテーマだった気がする。それで、緩いから、この学校を場所として提供して、そこに、その小学生もそうだし、地域のお年寄りとか、変な話、暇にしている人で、独りぼっちでいる人が立ち寄れる場所で、簡単にお茶とか何か軽食、飲み物、お菓子とかがあったら立ち寄りやすいかなというので、今言っている話とちょっと違うかもしれないですけども、そのときは、当時いた学校の場所を提供してもいいなというふうに思っていました。

すぐ開放的に、ぱっと出てくる。今もあると思うんですけども、そういうところで提供してもできるんじゃないかなと。セキュリティとか何かって、そっちの問題はついてきますけれども、そのぐらい学校が少し緩くしてもいいんじゃないかなと思います。

○議長 今、小中のお話いただきました。

中学校バージョンと小学校バージョンと、ちょっと違う形のイメージがあるかもしれない。

○委員 イメージはありますし、また、高校になると、また違うかなと思うんですけども、でも、基本的にはそういう、どこまで地域に開くかというところもあると思うんですが。

○議長 可能性としては、そういうのは面白いかもしれないというのが出てきましたので、ちょっと考えていけるんじゃないかなと思って、今、ふと思い出したんですけども、中高なんか、学校の中に購買部があったりして、パンなんか売っていると、そこに、学校にもよりますけれども、パンを買いに行っているときの相手をしてくれる購買の方とかは、先生でもないし、また、給食の人でもないしとか。ちょっと校門を出たところに小さな、昔ながらのパンを売ったりジュースを売ったりする店があると、結構高校生は寄ったり。今もうコンビニになっちゃいましたけれども、昔、コンビニのない時代は、そこに行って食べたりするというのが、親とか先生とかも違う。だけれども中高生はみんな知って……。中学生はないかな。高校生ぐらいだと、みんなお腹がすいて帰ってパンを食べたり、牛乳飲んだり、ジュース飲んだりみたいなのところがあったようなことを思い出しますので、そういうものが、今もうコンビニぐらいしかなくなってきているので、あったら……。

○委員 あったらいかなとか思いますし、そういうものをされているところもあって、本、書籍も出ていたりして、時々講演とかも聞かせていただくんですけども、おみそ汁が一番人気があるということをおっしゃっていますね。

○議長 いいですね。そういうのね。

○委員 やっぱり何か、ほっとするみたいです。あと、甘酒とか折々のものを出すと子どもは本能的に喜ぶので、そういうものが一番人気があるという話も聞いているので、黙っていたければいいしという、ちょっと緩まる場所が。

○議長 これは、予算とかがもしかかったら、どうなるんですか。

○事務局 今のところ予算は考えておりません。

○委員 多分なんですが、こういうのって、1回やったくらいでは初めは誰も来ないと思いますよね。そのうち1人来、2人来、じわじわという感じだとは思いますが、子ども食堂として立ち上がりのときは、本当に1人2人来てくれればいいかなというようなことかもしれないんですけども。

先生たちがそう思ってくださっているというのは、すごく何か……。はい。

○委員 みんながみんなじゃないかもしれないけれども。

○委員 少なくとも。はい。

○委員 でも、日常我々、お茶じゃなきゃ駄目とか、そういう学校が放課後になると変わる。それで、地域の人がいて温かい目で見えてくれるというのは、いいんじゃないかなと思いますけれどもね。

○委員 うん。面白い。

○委員 そんなに抵抗感はないんじゃないかなと思いますけれども。

○議長 何かイメージが少し膨らんで、できそうな感じ。何かやってみたら面白そうな感じですよ。

○委員 部活の前の、分かりませんが、子どもも隙間を見て、何かにつられて来るかもしれないし、変なたまり場にはなるのか、それはそれでいいのかもしれないですし。やってみないと分かりませんが、でも、やってみるのも楽しいかなとは思いますが。

○議長 ほかの方々、御意見はどうでしょうか。

いかがですか。PTAの……。

○委員 私は、ここにはPTAの元会長ということで来ているんですけども、委員とは違うところで子ども食堂をやっているの、そういう目線で意見をさせていただきます。

先日、私がやっている他区の子ども食堂関係者の集まりで研修会みたいなものがありまして、今、児童相談所が各自治体に設置されつつある中、児童相談所だけで区とかの全体の情報を得るのは難しいので、子ども食堂さんから、ちょっと気になる親子がいたり、お

子さんがいたりすると情報をくださいみたいな通達というか、皆さんに周知があったんですが、それをやっちゃうと、通報というか、児童相談所のほうにつながれた親御さんが、ああ、また告げ口されちゃったから、もう行けないわねみたいなことを実際に言われる方がいらっしゃるということだったので、行政とつながることが支援につながるという意味では、いいと思うんですけども、子ども食堂に行っているお子さんとか保護者の方と子ども食堂の信頼関係というものが、やっぱりあると思うので、行政とか、学校もそうなんですけれども、むやみにつなげていいものかと最初に皆さんで話されたところ、ちょっと気になる場所でした。

でも、今言われた学校カフェというのは、確かに今、不登校だったり、学校になかなか行けなくなったりするお子さんも増えてきているというお話を聞きますし、そうでなくても、学校の中でちょっと自分の居場所が欲しいなというような生徒さんも少なからずいらっしゃると思うので、学校の日常でない違う景色の見える場所があるというのは、すごくいいことだと思います。

○議長 今のお話もありましたけれども、学校や行政とつながることが必ずしもいいこととは限らないということですね。それは。

○委員 委員のやっていらっしゃる子ども食堂が、たまたま学校の隣の施設でやっていらっしゃるので、学校との連携を考えたいわけではないけれども、つながれるんだったらつながろうみたいな方向に行っちゃうと思うんですけども、例えば学校じゃないところに、学校と全然関係ない場所にあったときに、学校とつながろうかなと思われたりしますか。

○委員 それは、こちらから情報を持っていったことはあったんですけども、決して学校からいただくことはなかったですし、そして、私も行政とつながって大変なことに、かえってこじれてしまったケースをやっぱり経験しているので、すごく慎重です。

○委員 そうですね。

○委員 ただ、運動会があって、何とかちゃんが代表なのに、何かどうも来ないらしいよみたいな。学校に出入りしていると、そういうものが場所からふわっと聞こえてくるんですね。だから、先生とかから直接聞くというよりは、風のうわさで流れてくるのをキャッチして、何で行かれないのといったときに、お弁当が作れないからというようなこととか、何で移動教室に行かれないのといったときに、どうもリュックがないらしいからとか、そういうことで、であるなら私たち、それをネットワークで用立てることはできるみたいな、そんな形になるので、やっぱり出歩いて、学校周辺とか、流れてくる音を聞くというのは、

すごく大事という意味ではあるかなとは。

○議長 多分、社会とか行政とか学校という大きな意味でのつながりというのは、あっていいんだろうとは思いますが。大人と子どもとか、大人同士とかというのは、あっていいというか、そういう方向性なんでしょうけれども、具体的に何年何組の何々ちゃんという形で、そこが成績がどうか、ちょっと経済的にみたいなの、それとセットになっちゃうと、多分来なくなっちゃうというか、嫌な感じになってしまう。それはすごく気をつけないといけないという趣旨ですよ。

○委員 そうですね。なので、子ども食堂という形よりは、やっぱり学校カフェとかのほうが、入るほうも入りやすいでしょうしというふうに思います。

○議長 では、学校カフェという形で、何か可能性があれば……。

○委員 そうですね。はい。作って……。皆さんで……。

○委員 少しできていますよね。委員の中に。

○委員 でも、それを深めていく？ どうですか……。おやじの会とかと一緒にするとか、何か分かりませんが、何かとても、この短い間でそれをこれして、ぼっとやるだけなら簡単ですけども、やり散らかしてしまうのも、また違うのかなということもあるので。練るのには、この委員会だけでは多分できないのではないかと思います。

○議長 ありがとうございます。

事務局としては、それはどういうふうにお考えになったんですか。それは、1回や2回だったら、やろうと思えば恐らくできるだろうということなんですよ。協力していただければ。だけれども、それでイベント的に何か、何かのときという、例えば中間試験が終わったときにみたいに、それを試しにやってみることは恐らくできるだろうと。だけれども、それで本当に来るかという、何かトラップがかかっているんじゃないかというふうに警戒したら来ないでしょうし、促されて行くのもまた違うよねというふうに思うのであれば、もう少し息の長いものになるんじゃないか。

○事務局 スケジュールの話になってしまいますけれども、最終的に、この1期2年の第30期の社会教育委員の会議のまとめという形になると、成果物として毎回報告書をお出しいただいていますので、そういう兼ね合いもあると、ずっとできるというわけではないので、そうすると、冒頭議長にもお話があったように、5月から8月ぐらいでどれだけ成果というか、そういう効果みたいなものが見えるかどうかというのはあれですけども、一応報告書みたいなところを考えると、ある程度期限を持ってやっていくしかないのかなと

いう気はしております。

○議長 というお話だそうです。

○委員 分かりました。

○議長 何かイメージはできますか。

今のお話だけでも、子ども食堂とはまた別に学校カフェというような形であれば、そういうものはあっても面白いんじゃないかというお話は出ていましたよね。あとは、それを具体化するには何が必要かということと、1回2回はできるでしょうけれども、それだけではねというのが委員から出ていましたので。

○委員 すごく具体的に落とし込みますと、例えば、学校の放課後でといったときに、私の住まいとは違うので、スタッフをその地域の人がやってこその活動だと思うので、そうしたときに、私の住んでいる地域の中学校の校長先生との、またその話合いになって、その校長先生がどういう御判断をされるかというふうなこととかになっていくとなるとという……。そのときに一緒にしてくれるスタッフも、また声をかけてというと、ぱっとイベント的にだったら、先ほどの繰り返しになってしまいますけれども、どうですかね。何か危険さをはらんでいますよね。

○委員 そうですね。本当に実践的な連携のすごくいい例だとは思いますが。なので、そういうことをやりたいと思っている方に、こういうことができますよという提案としては、すごくいい案だと思うんですけども、ここで、ここに集まったメンバーで、では、一回それをやってみましょうかというふうな計画は、ちょっと私も難しいのではないかと思います。せっかくだったら続けてやれるといいなと思う。とてもいい案だと思いますので。

○委員 逆に、そういうことを醸造していくための、私たちがモデルとして見せるみたいなので、地域の人も、こういうことをやるんだけれども、まずこんなふうにするのと言って見せるというような形のデモンストレーション的なカフェとか、そういったものの、何かもしやるのであれば、何かイメージですかねというところでしょうか。

深めていくと、どんどん深堀ってしまうので……。

○委員 その地域に浸透してこその学校カフェだと思います。

○委員 と思うので……。

○副議長 これは、あまり欲張らないで、とてもいいことだと思う。本当に大賛成なんですけれども、取りあえず、この資料2にあるこれまでの、ここにも学校カフェと書いてあるんですよね。まずは多分、学校カフェの開設を目指して、まずやっぱり地元の、それこ

そ小学校や中学校の校長さんの理解が必要なわけじゃないですか。そういう意味では、緩やかな連携をつくっていくために、来年の5月から8月、来年度については、個人情報に配慮しながら、例えば月1回は必ず学校に行って子ども食堂の様子を話すとかで、少しずつ関係を深めていく中で、いや、実は学校カフェというものをやってみませんかというような提案が現実的かなと思うんですよね。

なので、来年度は取りあえず間接的連携とか、それこそ、もう1つ、「間接的な連携はある(子ども理解)」と書いてあるんですけれども、子ども食堂におけるよりよい子ども理解支援に向けてというのを目的として学校との関係を深めていくというのが一番いいかな。チラシを配ってもらう。あと、情報交換という言葉がいいかどうかは別にして、意見交換をすとか、子どものことで。という中で子どもカフェの開設を目指していくというのが建設的かなとは、私は思うんですけれども。

そうすればだんだん深まってきて、いや、実は、学校の中で、ちょっと子どもたちがほっとできるような空間とか時間を設けたいんだけどもというようなところから入っていけば。いかがですか。そういうような言い方をされれば。

○委員 そんなにハードルは高くないと思いますよ。学校のハードルは。このことに関しては。そんなに。

○委員 そうですか。

イメージとして、そういうお話を持っていったときに、具体的なお話をもう少し聞かせてくださいというようなことに、話の進まり方というか、そうやって詰めていくような感じなんですか。学校との外部のやり取りというのは、したことがないので何ともあれなんですけれども。

○委員 目的を話せば大体理解できるんじゃないかなと思いますけれども。

○委員 それで、場所を開いていただいて、貸していただいてというか……。はい。

○副議長 現状では学校から少し離れたところでやっていらっしゃると思うんですけれども、地元の小学校とか中学校の校長先生が、あっ、子ども食堂の方だというような形で、ちゃんと認識されているんですかね。こういうときに。

○委員 はい。それはしています。

○副議長 なるほど。だったらハードルがあれなので、子ども理解、子ども支援に向けて、もうちょっと意見交換とか、そういうものをしていきたいと思います。そういう中で学校カフェの提案をすとかというのを来年度やってみたらどうですか。とてもいいと思うので。

○委員 なるほど。はい。分かりました。

○副議長 いきなり思い切り開設しちゃうと、ちょっと確かにあれですもんね。

○委員 そうですね。

それと、やっぱりメンバーも集めないと、多分、子ども食堂は子ども食堂なので。

○副議長 そうですよ。だから、そういうものをやりたいんだよねと、ちょっと反応を見たら、では、具体的に、まずは週に1回、金曜日の放課後にちょっとやってみようとか、2時間やってみようとか、ハードルをまずは低くしながらやっていくのがいいのかなと。人の問題もありますもんね。

○委員 はい。

○議長 人の問題って具体的に、できそうとかあるんですか。

○委員 例えば、PTAの方が通っている親御さんを、そのカフェのメンバーにしているのかとか、いろいろありますよね。ちょっとそこはデリケートですよ。どうなんですかね。どういうスタッフをそろえたらいいのかなというのは……。すみません。今、よく考えていなかったのもう少し事例を検討しないとなんですけれども。

○委員 PTAから出してくださいと言うと、それはそれで、また仕事を増やすのみたいな話になってしまうかもしれませんね。

○委員 ですし、来たい方、どうぞと言ったときに、誰が来てどうかというのが情報として出て行って、どうなのかなとか、その辺のことは、すみません、不勉強なので、どうですかね。

○委員 そのお子さんが……。

○委員 来ますよね。それで、いろんなことを話すじゃないですか。

○委員 知っているお母さんが来るとかというのが。

○委員 どうかしらというのとか、あの子のママが来ているのということとか、そんなような、こんなようなことというのは、どうなのかなというのは、少しちょっと思う。やってみて気づいていくことなのか。少し調べてみないと、ちょっとあれなんですけれども。

○委員 知っているお母さんがいて安心する子もいれば、知り合いがいるなら行かないという子どももいるでしょうし。

○委員 ということもあたり。

○副議長 基本的には、具体的な話になっちゃうとあれなんですけれども、やっぱりあまり利害関係がない人のほうがいいかなとは思うんですけれどもね。全てにおいて。とりあ

えずは、いざ開くぞ、ああ、いいですよと言われてからの、多分話だと思うので。まずは関係づくりを……。

○委員　そうですね。まずはそうですね。はい。

最初、私1人で座っていてもいい……。来てください……。

○委員　私、聞いていて思うのは、これは多分子どもが手伝うんじゃないかなというふうに思いますよ。

○委員　ああ……。なるほど。

○委員　何かそういう場をつくって、カウンターでやるというようなことを言う子が出てくるんじゃないのかなって。そんな気がしますけれども。

○委員　あまりそんなにしつらえないで、そこそこで始めてみるということですね。

○委員　まるで高校の文化祭とか学園祭風に、きっと手を出してくるんじゃないかなって。そんな感じがしますよ。本当に見守るだけで、あと何か子どもたちがやるんじゃないかって。甘いものとか、食べ物には子どもを笑顔にするものがあると思いますよ、きっと。

○委員　なるほど。子どもさんたちの力を信じるというか。子どもたちを巻き込む感じ。

○委員　巻き込まなくても入ってくると思いますよ。きっと。

○委員　入ってくる。ああ、そういうことですね。

○委員　勝手に。

○委員　分かりました。なるほど。

○議長　これは今みたいな話が出てきて、これは何か動きが出そうな雰囲気ですよ。これは今、3月ですけれども、来年度の第8回というときに、これもちょっと先走っちゃいますけれども、以前、4月で日程調整させていただいたと思うんですが、あまりぴったりくるものがなかったのと、それから、4月はいろんなことで忙しいんじゃないかということで、再調整、予定として5月はどうでしょうかという提案がありましたので、この表では5月になっておりますが、そこに向けてもう1回、学校カフェであれば学校カフェの計画案と、ちょっと計画案だと堅いですけれども、いろんな可能性があって、今、委員からいろんな関係づくりのヒントがあったり、中学生だったら結構やりたいというふうにして、遠巻きに見ている子がいて、手伝ってと言えやってくれるんじゃないかというような話もあったので、そのあたりで少し、もうちょっと、計画案だと言葉がちょっとあれですが、どんなふうにやったり、どの辺ぐらいまでいけるかみたいなところで、もう少し具体的なものに落とし込んで、次回にというぐらいな感じでいかがですかね。

○委員 いいですか。では、それを考えてくる感じで。はい。

○事務局 学校カフェに関しては、この間、話し合われていない、今日出た案という形になりますので、例えば子ども食堂のことで言うと、今回、計画案ということで資料3、これは担当の委員のほうから中心に、いろんなことを決めていただきながら、ほかの皆さんでも、いや、こんなことも可能性としてあるんじゃないの、こういうところには、やっぱり注意してやったほうがいいんじゃないのというようなことを盛り込みながら、計画、案の案と言ったらいいんですかね。たたき台みたいなものをつくっていただき、それをもって、例えば子ども食堂のスタッフの皆さんと話し合いをして、また若干修正も出てくると思うんですね。子ども食堂の例で言いますと。

そういった中で、これはできる、これはできないということも判断していただきながら、再度また計画案をつくっていただいて、実際に学校とお話をしていただきながら、では、こういうスケジュールでやっていこうねというのができてくるといいのかなと思っています。

ですから、学校カフェということになりますと、今日、急遽出た案でもありますので、今それぞれの委員の皆さんからいただいた意見を参考にしながら、少し委員のほうで固めていただけると、次回、こんなふうにやろうと思っているんですけれどもどうですかということで、また意見交換ができるのではないかなと思っています。

○議長 ということですが、よろしいですかね。

○委員 ざっくりとしたところで、チェックしていただくとか、相談に乗っていただく...
...

○事務局 事前に相談にも乗りますし、それから、ついでなので申し上げますけれども、例えば学校長あるいは副校長先生にこういった話を持っていくときに、事務局の私どもも同行させていただきますので、御安心いただければと思います。

○委員 はい。ありがとうございます。自由に考えてみます。ありがとうございます。

○議長 では、学校カフェは、一旦そこは終わりにしたいと思います。

次は、順番からすると、おやじの会の話でいかがでしょうか。これは何かしなきゃいけないとか、これだというふうなことではなく、今のお話を聞きながら学校と何かということについてですが。

○委員 学校と何かというところが、何かちょっと引っかかるというか、どうかなと。どうかなというのは、その正解なのかなというか、その答えになっているかなという気

がするんです。今の学校カフェの話もそうなんですけれども、おやじの会的なスタンス、おやじの会的な発想で言うと、命に関わらないんだったら取りあえずやってみればいいじゃんという。別に失敗したって誰も困らないんじゃないのという気がするのです。こういう話って結局人次第なので、意欲的な人がいてとか、いろいろな提案がその場に出てきて盛り上がる、盛り上がらないというのは結局決まるので、最初の計画段階からうまくいくかどうかって、多分誰も分からないよねという気がします。

というのがまず1つあるのと、あと、ここにある子どもとおやじと一緒に作り出す企画会議みたいなものがありますけれども、おやじの会っていろいろな組織があって、いろいろなことをやっているのです、正解ではないかもしれないですけれども、僕のおやじの会の発想で言うと、確かにこれってあまり経験がなくて、お父さんがこういうことを経験させたいとか、こういうことをやったら絶対子どもたちは喜ぶだろうと想像して、おやじ同士の中で、では、それをどうすれば、どれくらいコストがかかってとか、手間がどれだけかかって、でも、それだったら実現できそうだからやろうかみたいなパターンが多くて、そこに子どもの発想は入っていないんですね。確かに。なので、子どもを入れての企画会議って、確かにありだなという気はとてします。

なんですけれども、いろんなおやじの会がいるので、そんなこと、もうやっているよと言われそうな気もするなという気もするんですけれども、ただ、発想的には、僕のおやじの会の発想的には、子どもを企画会議の中に入れて、どんなことをやったらいいかだったりとか、例えば、潮干狩りだったりとか、バーベキューだったりとか、山登りだったり、スキーだったりとかあって、ぱっぱっと思いつくので、そういう大きなイベントをやりたいといったときに、子どもたちにアンケートを取るとか、どれをやりたいかみたいな。そこには全くコストとか手間とか関係なく、では、それで多数決を取って、一番これが人気があるんだけれどもどうするというのを、おやじたちに考えさせるのって、結構面白そうだなという気はしますね。

やっぱり絶対、まずコストと、やりやすさとかから言うと、おやじ同士で考えると、とても優先してしまうので。でも、子どもたちはこれをやりたいと言うんだけれども、それをクリアするためにはどうすればいいか、みんなで考えようみたいなものは、おやじの会としては、とてもミッション的には面白いかなという気はするので、そういうものを一回企画として、どこかのおやじの会にやってみないというのを投げたらいいかなという気はしますけれども。

でも、ちょっと不安なのは、もうそんなことやっているよと言われそうな気もするなという気もするんですけども、僕の発想の中では、やっぱりそういうものを、ちょっとおやじの会に投げかけてみて、そういう組立てで企画をやってみたらどうでしょうかというのは、提案するのはありかなという気がします。

○議長 一旦ここでいいですか。

○委員 はい。

○議長 このフォーマットはいかにも役所的なんですけど、多分求めているのは、学校でとか役所でとかでつくるものとは違う、子ども食堂、今、学校カフェが出てきましたけれども、子ども食堂をやっている委員たちが何かやろうとしたら、こんなものが出てきて、それはこういうところが、子どものお母さんが来たら楽しそうではあるけれども、でも、何とかちゃんのお母さんと思っちゃったら行かなくなっちゃうとかということがあるよとか、そういう今までとは違う発想で新しいものがやれたら。どうすればできるのか、どこがちょっと問題なのかみたいなことを、多分探りたいということだと思うんですね。

それで言うと、今、委員が言われたように、おやじの会だったらこんな発想がある、こういうことだったら、おやじの会の皆さんは面白がって、何かやるんじゃないかというようなことなので、それでいいんですよ。そういうものが欲しいわけなので、決して、これをやるためにどういう手順で、経費が幾らかかってみたいなことをやって何かをする。そういうものもあるんでしょうけれども、そういうことを求めているわけではないんですよ。

○事務局 そういったことも含めて大事な事かなとは思いますが、あまり出たところ勝負みたいなところとなってしまうと、ある程度、この中では考えていただきながらというところではあります。

○議長 ただ、僕としては、おやじの会らしい手法で何かやっていくときの物事の決まり方とか、そういうものが、今、委員が言われたように、こういうのだったら面白そうだなというのが、まさにおやじの会的な物事の動き方というか、決まり方とかいうので、もちろんその中には段取りを決めたり、お金がかかったり、いろいろするんでしょうけれども、そういうことで何か委員のほうでアイデアがあるとか、これは面白そうだなとかというのがあれば、いいんじゃないかなとは思っているんですけども、いかがですか。

○副議長 そうですね。本当に、前も多分おっしゃっていた、子どもと大人、子どもと一緒に作り出すという企画会議。かなりとってもいいなというふうに思いますので。

具体的に、もう少し何かイメージってあるんですか。やっぱり委員から見て、集まってくる子どもたちからいろんな意見が出そうとか、何か具体的なイメージってあるんですか。これまでの活動で。

○委員 ないですね……。

○副議長 でも、聞いてみたらいろいろ意見が、アイデアは出るであろうと。

○委員 今言ったように、おやじの会のイベントはおやじが決めていて、子どもからの意見を聴いてというのは、個別で自分の子どもからこういう話があったよとかというベースはありますけれども、みんなで子どもとコミュニケーションして決めるという経験は僕にはないですね。なので、そういう提案はありかなという気は、逆に確かにしますねというのは思いますけれども。

それで、子どもたちから、こういうのをしたいとか、ああいうのもやりたいみたいのが出てくるかといったら、分からないですね……。出てきたらうれしいですね。おやじは、もうすごい頑張ると思いますね。そんなのが出てきたら。そうか、そうか、何とかしようとなると思いますけれども。出てくるかなというのは不安ですね。だから、やってみるといのは、いいんじゃないかという気がします。

○副議長 面白そうですね。学校との連携をもし考えるのであれば、学校という場を使って、何かちょっと限定をして、「学校という場を使って何やりたい？」ぐらいのあれですかね。

○委員 そうですね。何かよくある逃走中とか、肝試しとか、学校に泊まる会とか、この間、キャンプファイヤーをやっているおやじの会がいましたけれども、校庭でキャンプファイヤーをやろうとか、そういうのは結構おやじのイベントとしてはやっていますね。既に。

○副議長 なるほど。

それを、だから子どもたちに、学校という場を使って何やりたい、子どもたちにちょっと考えてもらうというのは面白いかもしれないですね。どういうアイデアというか、発想が出てくるか。

○委員 そうですね。おやじは、ぱっと何か肝試しとか、そういうふうに言っちゃいますよね。

○副議長 また違う発想が出てくるかもしれない。

○委員 そうですね。それは面白いかもしれないですね。子どもたちに聞いてみるという

のは。

○議長 僕が経験というか、区内の学校では、校舎の改築のときに古い校舎のほうに、みんなでいろんなものを、ふだん落書きしちゃいけないけれども落書きし放題だったり、夜お泊まりで、何かキャンプみたいなもので、取り壊す前の校舎に泊まるとか、そういうのは実際に見ていますけれどもね。これはどういうもので共用できるというか。

○委員 可能だと思うんですけども、話し合う時間をどこに持つかだと思いますね。ちょっと行事予定、例えば3月を見たんですけども、例えば子どもたちと地域の方が話す日がどれくらいあるかなという、結構少ないですよ。継続的に話す日を持とうとすると、なかなか。今、例えば中学で言えば、委員会とかがあったり、週番の引継ぎがあったり、それから、当然部活動があるから、そのどの時間に持っていくかによるのかなという気がちょっとしますね。でも、意見をいろいろ出すんじゃないかなという気はしますよ。当然。遊ぶことに関しては子どもはやっぱりプロだから、幾らか何かお金を出してもらって遊ぶといったら、遊べるかと思ってアイデアを出すんじゃないかなという気がしますね。

○議長 委員、いかがですか。今の。

○委員 この会で、これが面白そうだったので早速やってみた。やってみました。というのは、最初に6年生が、うちの学校で毎年卒業企画を、おやじの会の方にやってもらっていた、それこそ学校探検というものがずっとあって、私が行く前からもうあったみたいなんです。それで、おやじの会の人たちは、そこで子どもを驚かせたりすることにとっても楽しみを感じていて。分かりますよね。なんだけれども、ちょっと私、違うなと思ったのは、子どもが発信して、これやりたいということをやらせてみたらどうだろうかと考えていたんです。

コロナになったので探検をするのもどうなんだろうというふうになったときに、3年前の子たちは、コロナだけれども学校の中でできることを考えましたとプレゼンに来ました。私のところに。こういうことがやりたい。未成年の主張とかなんとか。そういうものを体育館のステージから、マスクしているじゃないですか。だから、マスクを取って、離れたところで、ばーんと声を上げたいんだとか、あとは、学校探検の夜の部というのは、おやじの会の皆さんにプロデュースしてもらったところを自分たちが楽しむのはやりたい。あと、花火がやりたいとかね。そういうふうに企画を持ってきたので、「校長先生、いいですか」と来たので、「校長先生はいいけれども、これ、子どもだけでできない。どうする?」と言ったら、おやじの会の人に頼もうというふうな流れができたんですよ。

3年前の子たちがそれをしたから、その次、去年の子たちも似たような感じで来て、今年はさらに、もう2人の子が卒業企画を考えてきましたと言って校長室に来ます。全然違う発想で、逃走中を最初はやりたかったんだけど、学校内だと危ないというのは分かっている、現実的に宝探しかくれんぼをやりたい。そして、それを中心にやりたいと持ってきたんだけど、「本当にそれで楽しめるかどうかというのを、2人の考えをみんなに聞いたの？」と言ったら、すぐに、今、iPadがあるじゃないですか。ロイロノートを使って子どもたちでアンケートを取った。そうしたら別のアイデアも出てきたわけです。その2人がもう企画の中心になっちゃっているんですね。

そこから先に具体的に進めるのに、先生たちの力は貸さないよと言ったの。最初に。なぜかという、土曜日の午後で、夜までかかるような企画なので、校長先生は付き合うけれども、ほかの先生たちはいないかもしれないと言ったら、じゃあ、おやじの会のと出てきたんですね。

○委員 子どもたちからおやじの会に声をかけたんですか。100点ですね。

○委員 そうそうそうそう。おやじの会の人、いつもうちの学校で活躍しているのを見ているからなんです。それで、「じゃあ、おやじの会の人につなげるよ」と言ったら、おやじの会の会長さんが、じゃあ、相談の会に、その2人の子とも会長さんと3人で時間を合わせて、校長がいないところでその企画を盛り上げて、高めて、さらに、さっきの宝探しのほかに、未成年の主張と、4人組の学校探検とかというふうに、どんどんその時々の子どもが欲していることをかなえるような形でやることになりました。

○委員 そうなんですか。

○委員 はい。今週の土曜日だった。やるんですよ。夕方。ずっと夜までやるんですよ。ちゃんとそれは途中も、夕飯の時間帯は一旦帰ってとか、そういう企画まで、もうちゃんと練り上げていて、再集合とかね。面白いです。

だから、そこに付き合ってくださいっているおやじの会の会長も偉いし、安全面とか衛生面とかで、何かお医者さんがいて、コロナの場合にはこういう感染対策を取れば大丈夫という太鼓判があったり、プランについても、大人の会社の企画のこんな分厚い冊子みたいなものを、おやじの会の人を用意してくれたりして、もう責任持ってやりますんでというふうに持ってくるんですね。

なので、もう子どももその気になって、そのプロジェクトが発進しているというふうな感じで、ますます大人を尊敬する。ああ、こうやって物事を進めていくんだみたいなこと

を学びつつ、自分たちの意見をまともに取り上げてくれてうれしいなというふうな感じで、今ちょっと盛り上がっているんですね。たきつけてみてよかったなと思っていますけれども。楽しそうです。小学生でもそのくらいできるんだなって感じがします。

○委員　そうですね。大学受かりますよ。推薦入学で。

○委員　勉強ではそんなにでもない子だけでも、遊びのこととなると子どもには火がつくというか、全部の能力を使っているんなことを考えていく。それが遊びだと思えばですよ。勉強だと思ったら、また違うかもしれない。そこに先生が入ると、ちょっと勉強色が見えるじゃないですか。先生も黙っていられなくなるから。おやじの会の人なので、もう言いたい放題して、おやじの会のほうからも突っ込みがあって折り合いをつけていくというような。

おやじの会の人が、かくれんぼ鬼ごっこの鬼役をやることになりまして、でも、絶対捕まえない鬼なんですって。子どもが言うには、その鬼の人たちが要所に隠れていて、自分たちの安全も見守ってくれるという役割も果たすと。宝を探してきた宝は、本当の宝じゃなくて言葉が書いてあって、言葉をつなぎ合わせると卒業のメッセージになるんですって。それも、その2人の子どもが考えたプランに、おやじの会の人に乗ってくれたというような感じで、ああ、学校で考えつかないようなことをやれるんだなと、おやじの会に感謝しているところなんです。

ちょっとやってみたらそんな感じでした。

○議長　ありがとうございます。

お話を聞いて、いかがですか。

○委員　ぜひ、その話をほかのおやじの会にしたいですね。今度、情報交換会を3月21日にやるんですけれども。

○委員　参加しているかな。うちのおやじの会。おやじの会全体会みたいなのに。入っているかな。

○委員　学校配付で連絡が行っているはずですよ。

○委員　行っていると思うんだけれども、それを流していますけれども、みんな参加するものなんですか。

○委員　過去に参加されていたのを僕は知っています。

○委員　そうですか。

○委員　今回参加されるかどうか分からないですけれども、過去に参加されているのは知

っているので、ぜひ今回参加、今の話を聞いて、参加して、ほかのおやじの会に情報連携してくれたら、多分ほかのおやじの会も、今の話を聞いて刺激になるというか、うちもそういうのをやってみようとなるような気がするなと今思ったので、過去の連絡先にアクセスして、今回参加してくれるかどうか聞いてみようと、今思いました。

○委員 よろしくをお願いします。

親子じゃないほうがいいみたいです。ほかの人のお父さんというのが。自分の親子じゃないほうが何かいい感じですね。その6年生の子の親じゃないんですよ。違う、ちゃんとしたというのは変だけれども、ほかの大人という人が真面目に付き合ってくれるというのがいいんだなと。

○委員 そうですね。よく分かります。

○委員 面白そうです。

さっき話合いの時間がと言ったんですけれども、私のイメージでは、こうやって大勢でわいわい話し合うというよりは、どっちかというと発案した子を中心に、発案した子と、こちらの関係者の代表の人だったら、気軽にぱっとすぐできると。そんな感じでした。時間の設定ですけれども。放課後の時間で打合せをしていました。

○議長 クラス全員とかいうことではなくて。

○委員 クラスのものは、もう子どものほうで集約していたんですね。先に。それで、それが企画をある程度練り上げて、おやじの会の代表の方とやって、突っ込みを受けて、さらにみたいな感じでしたね。

○議長 先生ではない大人と。

○委員 のほうがいいと思います。

○議長 だからこそ、子どもたちも大人だから安心。安心できる大人としてという意識が強い。誰かのお父さんというものがある。でも、先生ではない。一緒に真面目に遊んでくれるというか、やってくれるというふうな関係性がある中で、あとはいろいろ工夫していくと。大人のほうも真面目にいろんなことを考えてくれるから、面白くなっていく、楽しくなっていくということですよ。

○委員 はい。

○議長 校長もそれは理解し、いいよということ。

○委員 面白そうだなと思うから一緒に遊びたいなという感じですね。

○議長 使った場所は学校ですよ。

○委員 学校です。

○議長 学校で。当然、大人のほうも安全に対するいろんな配慮はしているという環境の中で、今みたいなことができているということ。

あとは、おやじの会でどんなふうに……。

○委員 ちょっと蛇足になるかもしれないですけども、前にも申し上げた、学校でやるべきことって知識を詰め込むことじゃなくて、そういうことだと思うんですよね。知らない人を巻き込んで何か目標を達成するにはどうすればいいかという経験をさせることじゃないかと。おやじの会の意識のあるおやじは多分みんなそう思っている気がします。だから、いろんなイベントを子どもたちに、体験のイベントだとかをさせているんだと思うんです。今みたいな話というのは非常に、おやじの会的にはウエルカムで、全面協力に行くと思いますね。みんなね。

○議長 では、これも、委員にさらにそれを進めるためのものを、もう少し考えていただく。

○委員 そうですね。でも、何か今の話で終わっちゃった気がしますよね。

○委員 それぞれの学校でやってみたらいいんじゃないかなと思うので。

○委員 そうですね。

○委員 そんなにハードルは高くないと思うんですよ。

○議長 ただ、時期の問題で、一応来年度というふうな形でリクエストとしてはあるんですよ。

○委員 そうですね。僕は現役ではないので、おやじの会の現役のあれに関わっていないですけども、オール世田谷の中には現役のおやじもいるので、今、現役でやっているおやじたちに、こういう話があるんだけれども、こういう流れで、イベントを一回やってみたら面白いらしいよと言ったら、乗ってくるところはある気がするので、それで、その成果を、こういう形でやって、こんなことをやりましたみたいなものを報告できればいいかなという。結局僕は何もしなくていいということなんですけれども。でも、何か乗ってくる気はしますね。

○議長 では、これも次回……。

○議長 では、もう1つ、子どもぶんか村について、同じようなことで何かいかがでしょうか。

○委員 私も先ほど委員がおっしゃったような、土台をまず作って、そこから発展してい

くものがあるんじゃないかというふうに、まず考えました。なので、子どもぶんか村のこと、その地域でやっている物好きなお母さんたちとか、そういう人たちを、学校の先生たちともっとコミュニケーションを取って、お互いに知る、知り合える関係づくりがそこにあると、いろんなことがもっと広がっていけるんじゃないかなという気がするんですね。

なので、私は、学校協議会といっても、地域のそういう人たちと、PTAの人たちと、管理職の先生なので、管理職の先生だけじゃなくて先生全体、担任の先生もみんな巻き込んで、地域の人と何か研修だったり、子どものことについて議論しようだったり、そういうことが、勉強会みたいなことができたらいいなというふうに。そうしたら、それがすごく土台になるんじゃないかなという気がしています。

○議長 というお話が話のきっかけとして出ていますが、いかがでしょうか。

○委員 この中で、なかなか難しい話だと思うんですね。やっぱり。その学校がどういうニーズを持っているかというのがあるし、それだけの人材を抱えているかというのがあるので、どうやっていくかなというのは、やっぱりちょっと考えますよね。

○委員 先生たちは、地域の人たちは、いつもクレームを言ってくる存在ということでは思われているじゃなくて、応援しているということも、ちゃんと伝えたいなというふうに考えています。

○委員 そんなに別に、地域の人をそんなふうに思っていることはないと思うんですけれども。現状で言うと、コロナもあったので、多分地域の顔は全然見えなくなっているだろうなという気がしますよね。3年間ありましたから。3年間の中でも異動が当然ありましたから。3年前の姿の学校とは、今、違ってきているのでね。どんなことができるかなというふうには、ちょっと思いますね。

○委員 研修会をやってみたいなと思いました。だから、話題は先生たちがあまり詳しくないのがいいです。同じような土俵で。知らないこと同士のほうがいいかなというふうに思いました。何がって今すぐ言えないんだけど、あまり悪い話ばかりでもないほうがいいけれども、先生たちが多分今、知りたいのは、例えばSNSでの問題とかね。あと、家ではいい子していて、学校ではよくない子が増えているんだけど、地域の人からはどう見えているのかなとか、あとは教育相談的な話とか。何かそういう1つの話題でも、先生たちがもう既に知っているよ的なものじゃないほうが、これは、もし研修会というか、何かみんなで一緒に考えようよとかという。あるいは、講師の先生がいて、最後にはいい話が聞けるとか、そういうものを持ってもいいかなと思います。あと、それと全く別に、

仲よくなるだけだったら、集まった人でワールドカフェ方式で、人をどんどんどんどん入れ替えて、お互いの考えていることとか、人となり分かるようなミーティングを短時間の中でするとかというのでも、いいかもしれないですね。やってみたらどうなるのかなというのには興味があるけれども。

例えば子どもぶんか村の場合には、ぶんか村で活動が音楽とかなんとかですよ。何でもここで一緒にやらないのかなと逆に思う。一緒に楽しめることなのに、同じ子どもが参加しているのに、何かあるんですかねと考える。難しいのかなというのが、何でもかなというのがよく分からない。時間だけの問題ですかね。土日と書いてあるからかしら。そこら辺に多分、こちらの学校の先生に聞いてみれば何か分かるのかもしれないけれども、何かあるのかなというふうに思っちゃいました。

この中に入っているのは、先生たちは入っていないんですか。一緒に活動していない。

○委員 ものづくりで先生が入って、ものづくりクラブに学校の図工の先生が入ってくださったりしていたことはありますし……。

○委員 オケとか合唱は、指導しているのは先生じゃないんですね。

○委員 そうですね。先生たちは……。はい。

○委員 じゃないんだ。地域のそういうプロの人たちがやる。

○委員 なので、そういうことを私たちが受け入れる気持ちでいるということが伝われば、じゃあ手伝いますよと、もしかしたら言ってくれるのかもしれない。なので、そこが伝わっていないような気がします。

○委員 そうですね。

○委員 多分、土日の勤務というのが、やっぱり難しくなっているんだと思うんですよ。

○委員 そうしたら、夏休みとかですかね。

○委員 夏休みも研修がありますからね。なかなか……。我々が教員になった頃の学校とは、もう今、違うので。土日出てきたら勤務時間に変えなきゃいけないので、その土日に来た分を平日休ませなきゃ駄目なんです。授業に穴を空けていいんだったら土日出せる。

そうしないと多分、勤務の関係だと我々が今度責められると思うんですね。休暇を取らせていないじゃないって。

○委員 なので、学校が地域に開いていくという場合は、そういうことも大切だというふうに教育委員会が思ってくださることがいいかなって。

- 委員　そうですね。地域の方との交流を研修の一環にしてみようとか……。
- 委員　一環にして……。何かそういう位置づけを、学校と交流をちゃんと先生たち、持ちましようと言ってほしいですね。
- 委員　地域、家庭、学校で連携しろと言うんだったら、そのくらいのことをしていただくのがいいんじゃないですかね。
- 委員　いつもの管理職のメンバーだけでは違うなという感じがします。
- 委員　研修の一環だったら授業に穴が空いたりしませんよね。
- 委員　その時間をいつ持つかですよ。やっぱりね。これからどんどんどんどん、勤務時間についてはもっと厳しくなってくるはずですから。多分、文科省はいずれ出してくるはずですから。さらにもっと。今でも出しているんですけども、今でもまだまだ守り切れてはいないんですけども。そうなったときに、土日の勤務はやっぱり危なくなってきますよね。
- 議長　今のですけども、校長先生たちが、普通の授業じゃなくて学校の先生が出勤しているときに、地域の人ないしは僕なんかと呼ばれて話をする設定が、すごく苦勞されているんですね。今年の例で言うと、8月25日、これは夏休みが終わって新学期に入る前のときの25日に呼ばれて話をしました。あとは1月6日です。もう6日の朝から来て僕の話聞かされるって気の毒なんですけれども、そういう日しか設定できないんですよ。多分。ほかの日が全部詰まっていますよね。だから大変ですよ。日程的に。多分、1月6日なんて嫌ですから。普通は。でも、その日しかない。8月のどこかですね。そういうふうな日程になっちゃっているんですよ。多分。
- 委員　そうなんです。一番難しいのは、そこだと思うんですよ。普通で言うと8時15分から勤務が始まり4時45分に終わる。そうしたら、4時45分まで会議をやっているかということ、やっちゃいけないんですよ。
- 議長　そうですね。
- 委員　いけないんですよ。となれば、授業の終わった後の時間で地域の方とお話をする時間というのは、多分ほばないんじゃないかと思いますよ。休憩、休息を取らせなきゃいけないんですけども、要は、給食の時間も指導ですから、あれは昼食の時間ではないわけなんですよ。実際にそこで休憩は取れていないわけなんですよ。しかも4時45分まで働かせちゃいけないんですよ。4時45分になる前の30分間は休憩になっているわけなんですよ。でも実質取れていないですよ。だって、そのまま部活動をやっていますから。

だから、そこが一番難しいところなんですよ。

○議長 難しいですよ。今ね。

管理職の先生、校長先生たちは夕方までいて、行ったときに話をしていますけれども、普通の教員の先生たちは、その時間帯は命令を出すわけにいけないので、そういう先生たちと話すだけけれども、この間行ったときも、1時15分ぐらいから1時間ぐらいの設定をしているんですね。それは勤務時間の中に入れて、終わってまた別のことができるように。だから、普通の人が思うように自由に時間が取れない現実があるんですよ。多分。そこは難しいですよ。

○委員 そこは本当に難しいところですね。

○議長 多くの校長先生たちがそれをするために、もう1時間単位でどこかを削りみたいなことを恐らく考えているんですよ。職員会議だってあまり取っていなかったりしますもんね。

○委員 そうです。だから、4時を超えるような会議だったら、いいですか？ いいですね？ すみませんという。極力それを避けていますけれどもね。だから、多分そういうところに難しさがあるんだと思いますね。

○議長 それはどうしたらいいでしょうね。趣旨は反対とおっしゃっているわけでは、多分ないんですよ。でも、現実的にどうそこをどんなふうに、何かアイデアはありますか。

○副議長 関わっていくしかないですよ。しょっちゅう学校に出入りしている存在であれば、まず挨拶から始まり、やっぱりずっと言われているコミュニケーションの中で、いや、実はこういうことをやっているんだけどねから、あっ、そうなんですかみたいなところから始まっていけばいいですよ。だから、より、この先生に認知してもらうしかないですよ。

勤務時間との関係で言うと、自然な流れの中で入っていくしか……。

○委員 じゃあ、やっぱりカフェですか。

○副議長 そう。私、カフェも、だからいいなと思うんですよ。先生たちも……。

○委員 先生たちも飲みに来て……。お茶飲みに来てくれる先生が。

○副議長 そう。もしかしたらね。そうそう、あるかもしれないですよ。逆に先生のほうから、実はという何かあれもあるかもしれないですもんね。相談も。どうでしょうね。逆にあるかもしれないですよ。相談もね。地域の人……。こういうことをやりたいと思っているんですよとか。

特に、若い先生って、やっぱり一生懸命になっちゃうから、どうしても生徒のこと、学校内だけで、もうとどまっちゃっているという先生方が多いですもんね。どうしても一生懸命にならざるを得ないから。そこにやっぱり地域とどう関わっているのかなというのは、あんまり頭の中に……。

○委員 ないと思う。

○副議長 そうですね。だから、常にいる存在であり、学校内にいる存在というか、学校に出入りしている存在であれば、あっとはなると思うんですよ。あれ、誰だろうから始まり。そして、あと生徒を通じてとかという感じができてくれば。

あとは本当に、だから自主性に任せるしかないわけですね。先生方の主体性というか。

○委員 正直言うと余力はないだろうなと思います。今の先生には。特に若い先生たちが余力はないと思うな……。いっぱいいっぱいじゃないかな。我々が教員になった頃より、多分今のほうが仕事量は多いんじゃないかなって僕は思っているんですよ。従順に、彼らがよくこなしているって。私が今勤め始めていたら、ついていけたかなというふうに思いますけれども、よく頑張っていると思いますよ。そういう意味では本当に。でも、いっぱいいっぱい頑張っているっていう感じがな。余力がどれだけあるかというのは、ちょっと未知数ですね。

○議長 なるほど。

○委員 中学で言えば、ほぼほぼみんな部活を持っているので。持たされている、持たせているという感じですけども。そうなってくると、どうだろうというのはちょっと思いますね。

○副議長 さっきの夏休み中の研修というのは、いわゆる官製研修もやっぱりあるわけですね。世田谷区教委主催の。だから、それこそさっき言われた、本当に区教委で、これだけ地域との協働が増えているのであれば、もしかすると研修の一環として、では、この日は地域の子どもぶんか村の話を聞いてみようとか、お茶を飲みながらというような機会があるといいんでしょうね。本当はね。それは教育指導課のあれですかね。

○議長 コロナ禍の前で、いわゆる区の研修をかなり減らしたんじゃないかなかったですっけ。夏休みは。

○委員 都の……。

○議長 都のがあるんですよ。

○副議長 区の研修に行きたいですよ。

○議長 区の研修。僕も一回講師をやったけれども、翌年は仕事が忙しいから、カットになって減らしたというのは知っていますよね。数を思い切って減らしたという時期があった。

○委員 あとは、結局そこに部活動が入ってくるから、例えば吹奏楽で言えばコンクールがあったり、都大会があったり、もしかすると全国というのもあるでしょうから、事情はそれぞれによって違うでしょうね。

○副議長 増えるだけじゃなくて、免許の更新講習が廃止になって、あれで代わりに研修の管理というのが始まるんですよ。今度。その研修の在り方って多分、市区町村の教育委員会に任されていたと思うんですよ。あとは都道府県。その中にうまくそういう機会が設けられると、いいですよ。

本当に世田谷は人材の宝庫だと思うんですよ。私も最初は烏山北地域に関わって、いや、こんな人たちがいっぱいいるのみたいな。いや、すごいな、もったいないわ、これはというような地域が多いので、そういう機会をぜひね。多分ほかにそんなにないと思いますよね。だから、ぜひ世田谷で教員になった人には、それを知ってもらいたいというか、とてもいい地域だと思うので、もったいないです。

○事務局 私からの発言というのも本来ではないかもしれないんですが、先ほどお話しされたものづくりクラブには、図工の先生が担当されているということでしたが……。

○委員 されたことがあった。

○事務局 ことがあったということですね。今は異動の関係でとか……。

○委員 はい。その先生はいらっしゃらない。

○事務局 その経緯って、どういう形で図工の先生が関わるように……。

○委員 まず、講師をお願いしに行ったら、いいですよと言ってくださったということです。ほかの先生は無理ですと言う。大抵お断りされちゃうんですけれども、その先生はいいですよと言ってくれました。

○事務局 では、もう本当に善意で。

○委員 楽しそうでした。

○事務局 ということですね。そういう先生がどのくらいいるかということですね。

○委員 はい。そうですね。

別に、その先生じゃなくてもいいんですけれども、担任の先生たちが私たちと知り合いだったり、何かあったときには話し合えたりする。そういうふうな関係をつくりたいなっ

て。

○事務局 クラブの顧問とかなんとかということではなくて。

○委員 とかではなくて、それで子どもの話ができるということですね。

○事務局 そういう関係性を、学校側と子どもぶんか村のスタッフの皆さんとの関係性を
つくりたいと。

○委員 ぶんか村だけということではなくて、地域に開いていくという意味で、もっと学
校の先生たちが地域の人たちと話してもいいんじゃないかなというふうに思いました。

○事務局 ありがとうございます。

○議長 それはどうですかね。平成7年ぐらいから学校協議会なんかは、そういうふうな
イメージで意識されていたと思うんですけども、コロナの問題とか、先生が余裕がない
とか、校長、副校長先生がいたとしても、主任ぐらいは……。でも、一般の先生は少ない
ですよ。そういうものに。今みたいなことがどれぐらい可能ですかね。

○委員 もし可能だということで、考えていいかどうか分からないんですけども、この
ぶんか村で携わっている大人の人たちは、平日でも一緒に活動することってできるんです
か。

○委員 平日子どもがいない……。

○委員 子どもがいて、平日にやるということは可能なんですか。

○委員 ぶんか村がですか。

○委員 ぶんか村のいろんな、演劇だの、音楽だの、科学だの、あるじゃないですか。

○委員 それは土曜休みの日を何とかしようというふうなことで始まったので。

○委員 ああ、そうか……。

○委員 そうです。

○委員 じゃあ、平日だったら、分からないけれども、クラブ活動って小学校にはある。
子どもたちがやりたい活動で、先生たちが指導者というか、そこに入ってやっているけれ
ども、このぶんか村の、こんな多彩なメニューがあるじゃないですか。これで地域の人た
ちがゲストティーチャー的な感じで入って、学校の先生ももちろんいますよね。そうする
と、学校の先生と、ゲストティーチャーのぶんか村の人たちが、子どもと一緒に何かをす
るというような活動だったら可能かなと。そうしたら、自然な形でぶんか村のスタッフの
方と……。

○委員 でも、多分、講師の方たちも平日の3時、4時とかって非常に難しいと思うんで

す。

○委員 そこなんですよね。そこが子どもにとっての時間と、大人というか、先生にとっての時間と、地域の人たちの時間が一緒じゃないんだよね。そこが、もし一緒に共有できる時間があれば、今みたいなことが可能かなと思ったんです。

○委員 一緒に何かをするということを考えるのではなくて、その前に、意識的なものの中に地域の人と連携しながら教育をしていこうというふうに先生たちが思っているということ。

○委員 でも、思っているとは思う。

○委員 はい。

○委員 思っているとは思いますが、具体的な何か行動としてやっていかないと、思っているだけでは表れないというか。思いがないわけではないと思います。なので、何か共有、一緒にできるような時間が設定できれば、ちょっと分からないですけども、例えば夏休みに単発で、ぶんか村の科学教室があるというって、会場を学校にして、学校側の先生がつきますよみたいなのが例えばあったとしたら、そこで一緒にこうやるということでコミュニケーションが取れるとかして、思っているだけでなく、行動したことによって、さらに深まるというふうになるのかなと思うんです。

多分ですけども、先生たちが避けているとかって、そういうことではないと思うんですね。ただ、できないというのはどうですかね。

○委員 やっぱり時間でしょうね。例えば夏休みのそこに教員を出す。でも、正直この立場からすると、勤務を命じることはできないと思うんですよね。見に行ってくれる人は見に行ってくださいねとなっちゃう。

ちょっと今、話が変わるかもしれないんですけども、今出た中で、いずれ部活動を地域へ移行する。やっぱり課題はそこだと思うんですよね。子どもたちの活動する放課後に、いかに指導者が来られるか。4時から6時の時間。普通、働いている人は来られないでしょう。それで地域へ移行していく。では、そこで教える人たち。当然無償ではないわけ。ある程度それでも給料を払って食べられる人じゃなきゃ、しょうがないじゃない。だから、いかにそれを地域へ移行するかというところに、今なっているわけですけども、何年後にできるのか、ちょっとまだ分かりませんが。地域へ移行しようとしているときに抱えようという、またその部分の活動は、なかなか難しい部分があると思うんですよ。

東京都は3年後には、地域へ部活動を移行しようと言っているんですけども、文科省はその3年後を取り下げちゃったんですよ。自信がないわけですよ。

○委員 でも、そうしたら、もう企業もそういうことを応援するというふうに、派遣する、出張させるとか、そういう形ができるようになっていかないといけないですね。企業が。

○委員 だから、やっぱり勤務がちょっと邪魔にはなりますよね。勤務の内容としてね。どの時間にうまく設定できるかというところに、かかってくると思いますね。思いはみんなありますよ。でも、先ほど言ったように、その時間の中では多分余裕がない。極めてない。

○議長 事務局が実践、連携、協働に向けた活動を考えていく中でハードルになるのは何か、障害になるのは何かというふうなことを最初に言っていましたけれども、その1つが、こういうことなんだろうなと思うんですね。決して学校の先生は地域の人たちを嫌だなど避けているわけでもない。何か一緒にできたらいいな、校長先生も面白いことができたらいいなと思っている。思っているけれども、土日勤務を命じるわけにいかないし、いろんな教育課程でやらなきゃいけないこともあるしとなったときに、どうぞと言っても働いているわけですから、無限に時間があるわけではない。それぞれの人のワーク・バランスで充実させるとなってくると、どうもかみ合わないところがあるということですね。というのが1つは障害になるかな。

決して委員の言われているような、みんなで一緒に考えよう、それは教員が知っていることではなくて、教員も一緒に考えられるものがあつたらいいんじゃない。自然に子どもたちとやっている中で、話が弾んで親しくなつたらいいじゃないとは思いますが、現実的になかなか難しいということなんだろうなと思ってお聞きしておりました。

同じことは結構大学であるので、今、高大連携と言っていて、高校生が放課後に大学の授業を出て、高校生が行きたい大学の授業を受けて、受けたのは入学してから単位を認定するとか、コロナ禍のときでも、行かれなければビデオを見るみたいなことはやっているんですが、ただ、高校生の放課後と大学の授業の時間割がかみ合わないんですよ。高校生のために大学の授業をその時間帯に設定するとなると、先生方にとっては、えっ、それはちょっと趣旨が違ふよねとなっちゃって、多くの大学の教員は、どうぞどうぞ、高校生が聞いてくださつたらいいんじゃないですかと、みんな言うんだけど、時間割が合わないということがあって、あまり広がらないんですね。何人かはいて、それを受けて、大学に入ってくる、先生のところに行くとかというのはあるんですけども、なかなか難しい

というようなことと、ちょっと似ているんじゃないかなと思っているんですね。

その辺が、こういうものが分かってきただけでもいいんでしょうけれどもね。こういうことで。

クラブの移行もそうですよね。部活動の移行もね。可能性はあるにしても、4時から6時の時間帯で、お金は出るにしても、そんなに高額にならないだろうと。そうすると、優れた指導者がどれぐらいその時間に来てもらえるのか。企業も考えてくれればいいけれども、そんなにそこにエネルギーを投じて企業がやってくれるとも、ちょっと考えにくいとなると、なかなか難しいということですね。それを何とか日本でやっていこうと、今、動き出しているんでしょうけれどもね。

おやじの会のメンバーの中で、仕事の融通が利くならクラブをやってもいい、やったら面白いなとかという人はいないんですか。やっぱりそれは仕事と関わってきますよね。いろんな仕事をされていると思うんですけれども。学校に関わる時間だって、やっぱり仕事がオフのときですよ。

○委員 そうですね。ただ、今の時間が合わないという話って、今までの民間企業はどうか、有給を使わないじゃないですか。あっても。使えないとか、いわゆる従業員としての権利はあるんだけど、それを使う雰囲気がないみたいな、使うカルチャーがないみたいなものがあるじゃないですか。さっきの学校の先生の話もそうだったと思うんですけれども、従業員がもっと権利を主張し出すと思うんですよね。勝手な僕の想像ですけども。人手不足になるし、生産者人口は減るし、そうすると人手不足。今も、もうすごい宣伝していますよね。人材派遣とか、求人募集とかもそうですけれども、あれはすごく宣伝しているのは人が足りないからですよ。そうすると、労働者のほうが優位に立ってくると有給を使うようになると思うんですよね。もっとね。そうすると、介護休暇だったり育児休暇ができたように、地域貢献休暇とかができるんじゃないのという。

○委員 社会貢献休暇。

○委員 堂々と休みますみたいな権利。地域の行事に参加するので有給もらいますみたいになってくるんじゃないかなという気がしますけれどもね。

僕もばんばん有給取っていますけれども、何かの学校の行事に出なきゃ、平日出なきゃいけないとかというのはあって。もったいないですよ、有給使わないとねという。だから、そういうふうにならっていくと思うんですけれどもね。

○議長 意識の面では、会社がずっと一生あるわけじゃないし、自分の生活の中で定年が

あれば、そこからどうするのと、みんな薄々気がついているわけで、それで言うと、学校とか地域とかに関わるというのがいいかなと若い人も思いつつある。FIREなんかもそうですね。そんな大金持ちにならなくても、ある程度生活の見通しが立ったら仕事以外のこともしていきたいなというふうな考え方の人も増えてきたとなって。そうすると、少しずつ学校のクラブなんかも関わっても、もうこの仕事は午前中だけとか、海が近ければサーフィンをやってから会社へ行くみたいなのが格好いいとされた時代もあるわけで、そんなふうになると変わって。

おやじの会の人たちが、そういう地域に関わったり、学校に関わったりということが、抵抗がないというか、やりたいという人も増えている感じですか。委員。

○委員 まだまだですね。

○議長 まだまだ。

○委員 まだまだです。まだまだ昔のカルチャーというか、平日にそういう会議を設定するなんて、おやじのことを考えていないという。PTAのお母さんとか地域の人たちだったりとか町内会の人たちは、平日の10時からとか平気で言うじゃないですか。あれはおやじに出るなと言っているよねみたいになるんですね。そういう発想ですよね。まだ。

○議長 そういう状況がハードルになっている。しかし、変わってくる可能性もありそうだというあたりですかね。

○委員 お互いだと思うんですけどもね。だから、常に平日10時会議と言われたら、もうおやじに出るなと言われてるように聞こえるから、そんなの出るかというふうに思うおやじは、いっぱいいいと思うんですけども、いや、今回は、では、平日の6時からねとかと言われると、こっちにも配慮してもらっているなみたいなのがあれば、何かお互いにスケジュール調整がしやすくなるんじゃないかなという気はしますけれども。

○委員 学校としては、今、学校がいっぱい抱えていた業務を出していこうとしているわけなんですよ。その中で新たにまた抱え込んでいくのかどうかというところの見極めは、やっぱりひとつ難しいところだと思うんですよ。今、どんどんどん出そうとしているんですよ。抱え過ぎていたなと思うんですよ。今までは。あまりにも。その流れの中で、どこまでまた再び抱えられるかというところは、ちょっと難しいところがあると思いますね。

部活動が出せたら、きっとものすごく業務は中学校としては減ると思うんですよ。でも、どこまで出せるのか、何年後になるのかは、ちょっと未知数ですよ。

○議長 どうしても学校は24時間、先生は先生みたいなのがあって、どんどん大きくなる。それを小さな形にしていくというのが、周りからも認められていけばということですよ。きっと。

○委員 結局、24時間教育者たれということになっているので。今、そうなんです。結構これは厳しいですよ。

○議長 電話をこの時間からは受けませんみたいなものは大分進んでいるんですか。まだ……。

○委員 進んでいますけれども、でも、まだ、うちで言うと6時半まで。

○委員 中学校はやっぱりそうなんだ。

○委員 なっちゃうんですよね。部活を6時に終えて、6時10分に完全に下校させる、家に着くまで20分か30分までは、ちょっと余裕を持とうかとなると、6時半まで私や副校長さんはいなきゃいけない。

○委員 そっか。そうですね。

○委員 帰れない。

○議長 親もその時間にならないとかかけられないとかというふうな。仕事にとらわれていると、そこからかける形になっちゃいますもんね。

○委員 でも、副校長先生なんて、朝7時半ぐらいから来ていらっしゃって、帰れるのが6時半なんて、ブラックですね。

○議長 もっと遅いですよ。もっと遅いですよ。

○委員 なので、やっぱりどこまでできるかなというのは正直言えないですね。気持ちはみんな持っているですよ。実に休まないですよ。先生たちは。自分が例えば中学で言うと教科なわけですから、穴が空くわけですから、誰もほかに免許を持っているわけではないから教えられない。実に休まないですよ。

○委員 先生方の心の病みたいなことが問題になっていますけれども、そういう現実がやっぱり今、伺って、それはなるなとちょっと思いますね。休めない状況。

○委員 思いを持って本当に来ていますよ。よく頑張っているねと思いますよ。

○議長 最近病気も増えていますけれどもね。つらくなっちゃって。特に若い人はなかなか大変ですよ。

今、可能性という問題が少しずつ明らかになったわけですがけれども、でも、思いはあるということですので、それがだんだん変わっていくことも期待しつつ、だけれども、嫌が

っているわけではないけれども、なかなか難しいということは……。その上で、何がまた可能性があるかあたりを考えていくということかなと思って。どこまで具体化できるかわかりませんが、委員にも次に向けて可能性がありそうなところを、少し探っていたいただければなと思っております。

今日は、もう1つ、本来であればお話がいただけたところですが、御都合により欠席されておりますので、次回はその話と、あと、今日の続きということかなと思っておりますけれども、いかがでしょうか。大体お話を伺えたんじゃないかなと思いますが、皆様のほうで特に最後、これだけはというのがおありでしたら、お願いいたします。

今日は特に学校側のお話を聞かせていただけたので、事情がかなり分かったんじゃないかなと思って感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後のスケジュール等について事務局からお願いします。

○事務局 それでは、本日お渡ししました資料4の、こちらのスケジュールを御覧いただきたいと思います。

冒頭、議長からお話がありましたけれども、本来ですと次回、来年度の1回目の4月を予定していたんですが、4月は年度初めということもありまして、皆さんなかなか予定がつかないということもあって、5月に予定を変更できればというふうに思っております。そうしますと、当初、5月、6月でモデルの試行を予定しておりましたけれども、先ほどもお話があったように、場合によっては早くできる場所、7月、8月よりは早くできるものもあれば、逆に、その7月、8月で夏休み期間を使ってというところもあるかもしれないので、5月、6月に限定せずに5月から8月ぐらい。この期間を目安として試行ができればいいのかなというふうにも考えております。

来年度の最初の定例会は8回目ですね。本日できませんでした総合型地域スポーツクラブ、そして、3つの活動のお話の続きができればと思っておりますので、次回、8回目は来年度の5月を予定しまして、そして、9回、10回目は、実践的連携・協働活動の報告、

としまして、それぞれ御担当の委員の皆さんから試行の報告を行っていただければというふうにも考えております。その際なんですが、それぞれ報告会では、このメンバーだけではなくて、一部公開といったらいいんでしょうか。それぞれの担当の団体の皆さん、関係者の方々にも、自分以外の団体の事例報告といったらいいんでしょうか。こういう試行の報告を聞いていただくというのも、場合によっては参考になるのではないかなと思っておりますので、この9回、10回目の報告に関しては、それぞれ委員の皆さんに報告をして

いただくんですが、公開という形で。そうすると、地域でこういう活動があるんだということも知っていただくことになりますので。こちらにいらっしゃる関係者を中心に公開で集まっていいただいて、話を聞いていただくというのもいいのかなと思っております。

ということで、当初、成果報告会ということで大々的にということも考えておりましたがけれども、このような形に変更できればと考えておりますので、ぜひ皆さんの御意見を聴かせていただければと思います。

○議長 今お話がありましたけれども、当初、大きな会場でシンポジウムみたいなことを事務局から提案があったんですけれども、試行も今のような形で、無理にやってということがいいかどうかということもありますので、できる範囲でやっていただいて、そして、今日の話も、なかなか面白い話がたくさんお聞きできたので、ここに興味のある方、関心を持っている方、関係の方たちが聞いていただけるといふようなイメージで、成城ホールみたいなところで、ステージに立ってということも当初事務局は考えていたようですが、そうでなくてもいいのではないかというか、あまり緊張しないで、そのためにやるような会でなくても、今までのこの感じでお話しいただけたのを、聞いていただけて、感想でもいただけたらいいのではないかなというふうに思いまして、ちょっと軌道修正をしたということで、いかがでしょうかね。

○副議長 とてもいいと思います。

○議長 ということを来年度予定しているということでもありますので、4月はなしにして5月と。ちょっと空きますけれども、展開して、実践をして、9月に今のような形でできたらなと思っております。

よろしいでしょうか。

○事務局 最後に、子どもぶんか村の発表会について委員から少し御説明をいただければと思います。

○委員 チラシを配らせていただきました。3月26日、千歳台小学校で発表会をいたします。事前申込みをしていただいたほうがスムーズですが、当日でも全く問題ありません。どうぞ一目、御覧になりにおいでください。

このチラシは子どもから募集をして、自分が今年のポスターを描くんだという子どもたちが7人いて、その中から、それをみんなホワイトボードに一回貼って、自分の描いたものをプレゼンして、では、どれがいいかみんなで投票しましょうと言って選ばれたのが、この作品です。彼はこれで、3年目にしてやっと自分のポスターができたと言って喜んで

いました。

○議長 ありがとうございました。

では、今日の会議はこれで閉じたいと思います。どうもありがとうございました。